

札幌 南一条地区開発事業推進協議会のあゆみ



● 富山ライトレール(イメージ)



南一条地区開発事業推進協議会
会長 森吉 丈夫

上質でエキサイティングな商店街を目指して

南一条地区開発事業推進協議会は、過去12年間の南一条地区商店街のまちづくりに取り組んでまいりました。このたび、その展望をまとめた「あゆみ」を発行する事になりました。

当協議会は南一条地区商店街振興組合を母体として1999年11月に設立されて以来、札幌市との協働で、南一条地区の将来のまちづくりを検討、商店街の活性化に日々取り組んでいるところでございます。

上質でエキサイティングな街・南一条の実現をめざし「街並みガイドライン」、既存の地下街や地下鉄コンコースと接続した「地下歩行者ネットワーク構想」を相次いで策定。南一条地区だけでなく、周辺商店街の開発を含めた都心の発展を目指しているところでございます。

また、冬のイルミネーション事業や通りを緑で飾る「グリーン・オン・パレード」などの活動、さらに今年3月に完成した、南一条地区の原点といえる創成川公園「開拓の広場」の造成にも協力してまいりました。

上田文雄・札幌市長は2011年4月、南一条通り地区の地上部と地下歩行空間の整備構想を初めて明らかにしました。市が当協議会の長年の努力を認め、地域と一体となって再開発に取り組む姿勢を表明してくれたものと歓迎し、期待しております。

今後においても、南一条周辺地区を何としても再生させ、札幌の顔にしたいという会員一同の熱い思いを込めて、国際都市・札幌の中心地として誇れるまちづくりに邁進していく所存でございます。

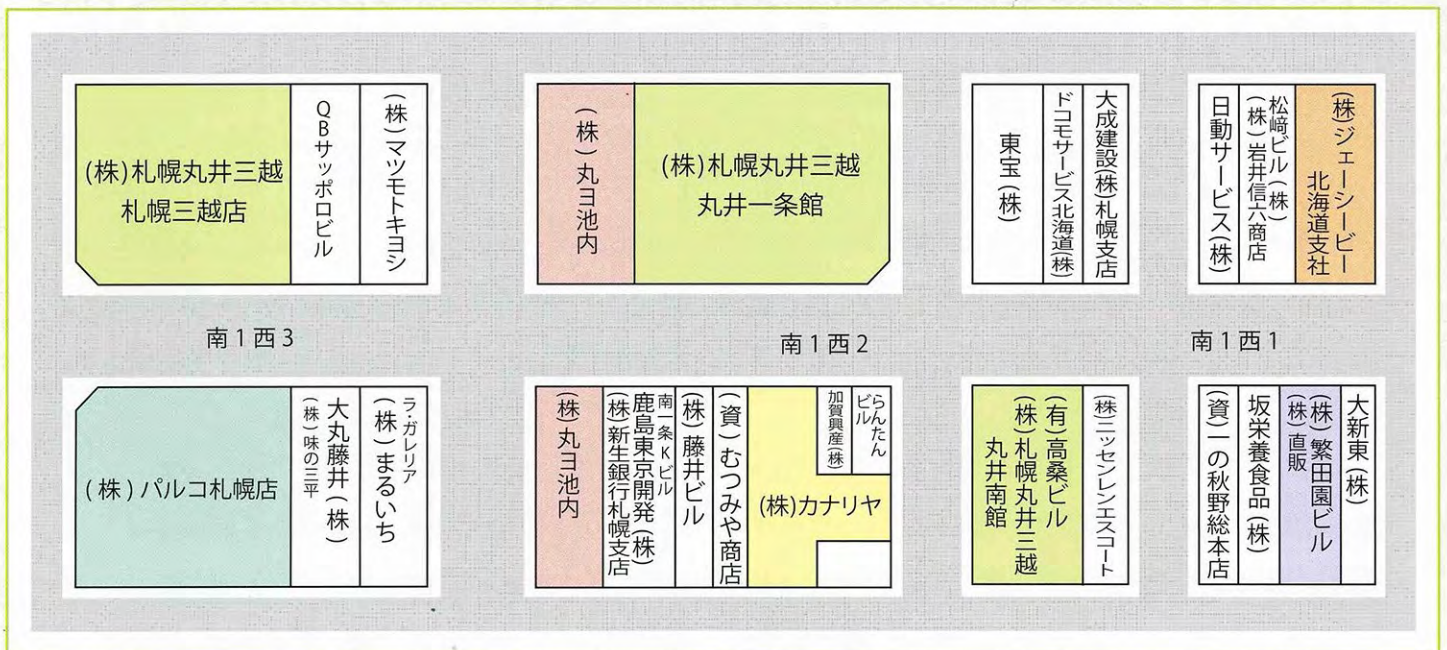
小誌の発行によって、関係者だけでなく、札幌市及び周辺地域商店街の方々のより一層のご理解、ご協力を頂ければ幸いです。

目次

概要	03 p
あゆみ	04 p
SAPPORO・No1・Street	05 p
官民協働の取り組み	07 p
上質でエキサイティングな街を目指して	09 p
市民が安全・安心して回遊できる地下空間	11 p
地下歩行空間の実現に向けた活動	13 p

マップ

南1条通(西1~3丁目)エリア



概要

札幌南一条地区開発事業推進協議会(岩井混会長、正会員20社、準会員13社、以下協議会)は1999年(平成11年)11月29日、札幌市中央区の南一条通(西1-3丁目)の百貨店、専門店等で構成される札幌一番街商店街振興組合を母体として設立されました。南一条地区の横のつながりを強化し、地下街建設を核とした同地区の開発が目的でした。

協議会は2000年3月、SAPPORO・N o 1・S t r e e t の実現に向けて『南一条地区まちづくり構想』を策定し、まちづくりの課題、方向性を検討するため、運営委員会のほかに専門部会を設置、2009年以降の実現の可能性について本格的な調査・研究に乗り出しました。

2002年10月、官民協働でまちづくりを推進していくために、札幌市と合同で「一番街商店街周辺地区まちづくり協議会」(座長・倉田直道工学院大学教授)を設置し、04年5月に『一番街商店街周辺地区まちづくり指針』を策定しました。指針では、周辺地区の対象区域を定め、まちづくりの目標と「地下歩行者空間ネットワークの形成」などの方針、実現に向けた3段階の取り組みを示しました。

まちづくり協議会は、この指針をさらに具体化するため、06年3月上質でエキサイティングな街づくりを目指し、経営の概念や手法をまちづくりに生かすエリアマネジメントの考え方を取り入れて『南一条地区街並みガイドライン』を策定しました。また、ガイドラインの内容を広く紹介するため「まちづくりフォーラム2006」も開催しました。

協議会は07年3月、開発の核となる地下街の整備を掲げた『南一条地区地下歩行者ネットワーク構想』をまとめ、市民が季節を問わず、安全かつ安心して南一条通りを歩けるように、既存の地下街や地下鉄コンコースと接続した地下歩行者ネットワー

クの拡充を図ることを、まちづくりの目的としました。また、07年から2カ年にわたって国土交通省の「まちづくり計画担い手支援事業」に選定されたことで、この構想の調査・研究をさらに深めることができました。

08年4月から、札幌市と地下歩行者ネットワーク構築の課題について定期的に協議を始め、共同研究に取り組む一方、5月には「地下歩行空間の整備」について、10年11月には「地下歩行空間の整備」「路面電車の延伸」「歩行者専用のトランジットモールとしての整備」について、それぞれ上田文雄市長に「要望書」を提出しました。

関係者の開発意欲は高く、10年秋に実施したアンケートでは、「地下歩行空間の整備」には90%、「路面電車の延伸」には83%、「トランジットモールの整備」には86%の権利者たちがそれぞれ整備を進めるべきと答えました。また、11年5月に実施した一般市民に対するWEBアンケートでも、上記の3事業について賛成との回答がほぼ同様に出ており、南一条地区の開発に対する市民の関心の高さがうかがえました。

一方、協議会は毎年商店街の活性化にも積極的に取り組み、02年から冬の「イルミネーション事業」、05年から路上を緑で飾る「グリーン・オン・パレード」などを実施しています。11年3月に完成した、南一条通開発の起点となった創成橋を囲む創成川公園「開拓の広場」の造成にも全面的に協力してきました。

4月に上田文雄市長は市長選挙3選後の記者会見で、商店街と市が一体となって取り組む南一条通の地上部と地下歩行空間の整備構想を2012年度中にまとめる意向を初めて表明しました。協議会の長年の努力が実を結んだと歓迎しています。

あゆみ

1992年(平成4年)	一番街商店街整備委員会にて地域開発着手	
1996年(平成8年)	一番街商店街整備基本構想まとめる	
1999年(平成11年)	南一条地区開発事業推進協議会 設立	初代会長 岩井 澁 就任
2000年(平成12年)	三菱地所、日建設計にて南一条地区まちづくり構想をまとめる 札幌市に協力要請	
2001年(平成13年)	南一条再開発街並ガイドラインデザイン検討スタート	
2002年(平成14年)	イルミネーション事業キラリウムスタート(06年まで継続) 一番街商店街周辺地区まちづくり協議会 設立	
2003年(平成15年)	オープンカフェ(花カフェ) 開催	
2004年(平成16年)	「まちづくり指針」策定	
2005年(平成17年)	「グリーン・オン・パレード」スタート	第2代会長 斎藤 元護 就任
2006年(平成18年)	「南一条地区街並みガイドライン」策定 「都心まちづくりフォーラム2006」開催	
2007年(平成19年)	「南一条地区地下歩行者ネットワーク構想」策定 国土交通省「まちづくり計画策定担い手支援事業」に選定される	
2008年(平成20年)	地下歩行者空間の整備に関する「要望書」上田市長に提出 札幌市、札幌商工会議所との懇談会 開催	第3代会長 森吉 丈夫 就任
2009年(平成21年)	南一条地下交通施設等検討報告書札幌市に提出	
2010年(平成22年)	南一条の街づくりに関する「要望書」上田市長に提出	
2011年(平成23年)	創成川公園「開拓の広場」完成にあたり「札幌建設の地碑」を 本府第一町内会と共に札幌市に寄贈	

南一条地区開発事業推進協議会 役員

※2011年6月現在

役職	氏名	企業名	役職
最高顧問	坂 尚 謙	坂栄養食品 株式会社	代表取締役会長
相談役理事	斎藤 元 護	株式会社 まるいち	代表取締役社長
顧問	小林 英 嗣	北海道大学	名誉教授
〃	倉田 直 道	工学院大学工学部建築都市デザイン学科	教授
〃	相蘇 恒 孝		
会長	森吉 丈 夫	株式会社 カナリヤ	取締役社長
副会長	杉浦 進	株式会社 札幌丸井三越	代表取締役社長
〃	池内 和 正	株式会社 丸ヨ池内	代表取締役社長
〃	藤井 敬 一	大丸藤井 株式会社	代表取締役社長
〃	吉田 博 一	株式会社 直販	代表取締役社長
理事	福井 文 弘	株式会社 札幌丸井三越	取締役常務札幌丸井三越店 店長
〃	新藤 信 夫	株式会社 札幌丸井三越	執行役員丸井今井本店長
〃	野口 高 志	株式会社 パルコ札幌店	店長
〃	角田 幹 雄	大丸藤井 株式会社	理事店長
〃	松崎 孝 弘	松崎ビル 株式会社	代表取締役社長
〃	岩井 久	株式会社 岩井信六商店	代表取締役社長
監事	菅原 理	鹿島東京開発 株式会社	取締役次長
事務局長	遠藤 信 之		
事務局	桜庭 絹 江		

1992年～2000年

SAPPORO・No1・Street

南一条地区街づくり 構想まとめる

札幌市中央区南一条通(西1-3丁目)の札幌一番街商店街振興組合(岩井滉理事長、会員20社、以下振興組合)は、1992年(平成4年)一番街商店街整備委員会を設置して地下街などを含む地域開発を検討、96年には駐車場と荷捌き施設を備えた延長約370メートルの地下街の建設を核とした『一番街商店街整備基本構想』をまとめました。

札幌南一条地区開発事業推進協議会(以下協議会)は1999年11月29日、この基本構想をたたき台にし、2001年4月には事業計画を策定し、開発事業の主体となる企業体の設立を目指して設立されました。

札幌一番街は、丸井今井、三越札幌店、池内など老舗の百貨店が集る、札幌で最も古い商店街であり、振興組合は南一条西1-3丁目の百貨店、専門店などによって1974年3月(昭和49年)に設立されました。

南一条地区は、札幌市の商業集積を代表する、歴史的に札幌建設の起点であり、明治の時代から札幌の商業中心として先導的役割を果たしてきましたが、「一部建物の老朽化」「地下街・地下通路とリンクしにくい」「駐車、荷捌きスペースの不足」といった理由により、消費者ニーズの多様化や車社会の進展に十分対応できず、札幌の中心地でありながら、客足が鈍化する一方でした。このため、ハード、ソフトの両面での抜本的な対策が望まれていました。

設立のきっかけは、当時郊外型商業施設の台頭とJR札幌駅南口の再開発に伴い大手百貨店・大丸(本社・大阪)の進出が予定され、南一条地区の集客力がさらに低下するという危機感が高まったことです。

この危機を乗り越えるために、都心の6商店街(一番街商店街振興組合、二番街商店街振興組合、札幌三番街商店街振興組合、札幌四番街商店街振興組合、札幌狸小路商店街振興組合、札幌地下街商店会)の横のつながりを強化し、地下街建設を核とした南一条地区の開発を目指したのです。

日本一の商店街にするような気概で

初代会長となった岩井滉・振興組合理事長(故人)は、設立総会で「南一条通地下街の整備を訴え続けた池内正・丸ヨ池内社長(故人)の遺志を受け継いで、地下街の実現を目指したい。この事業は一商店街の範囲を超え、地域ぐるみで取り組まないと成功しない。日本一の商店街にするような気概を持って、まちづくりに取り組もう」と、感慨を込め、力強く挨拶しました。

同協議会の設立には、以下の20社が正会員として、13社が準会員として参加、振興組合と同じメンバーでした。両会員とも一部テナントを含みましたが、基本的には地権者でした。正会員は協議会の活動及び年会費の支払いに賛同。準会員は南一条通に面していませんが、趣旨に賛同しました。

正会員の年会費は、所有する建物の間口・面積割による負担と基本(一律20万円)、それに特別の3本立てでした。特別会費は、発足時の資金不足を補うための臨時会費でした。

設立時の正会員は以下の通りです。

(株)三越、(株)まるいち、(株)パルコ、(株)丸ヨ池内、(株)岩井信六商店、(株)丸井今井、(株)カナリヤ、(株)鹿島ホテルエンタープライズ、(株)ジェーシービー、(株)長崎屋、(株)直販、大丸藤井(株)、鹿島(株)、札幌アルト(株)、大成建設(株)、松崎ビル(株)、北宝ビルディング(株)、丸善(株)、小六正圭、一番街商店街振興組合



● 初代会長 岩井 滉

協議会は、まちづくりに対する意見を幅広く聞くため、2人の都市計画等の専門家、小林英嗣・北大教授(当時)と倉田直道・工学院大学教授を顧問に迎えました。発足直後まちづくり構想の作成を三菱地所(株)に、地下施設については(株)日建設計にそれぞれ委託、両社は2回の間接報告を経て、2000年3月にSAPPORO・No1・Streetの実現に向けた『南一条地区まちづくり構想』をまとめたのです。

構想は、マスタープランへの一歩

構想では、南一条地区においてこれまで策定された計画や将来的な地区の位置づけを踏まえ、将来の地区整備の基本構想として、以下の4点を取りまとめました。

- 札幌市の将来まちづくりの方向性と地元の意向を踏まえたまちづくりマスタープランの策定
- 新たな商業機能導入の方針と、公共的空間と周辺建物とのネットワークのあり方
- 一番街商店街の将来の管理・運営のあり方
- 行政との役割分担を考慮した事業化方針の検討

構想は、「関係者の意見を取りまとめた、行政との意見交換のたたき台であり、あくまでも民間が主体となって進めていくこと、行政との調整をはかりつつ、構想をマスタープランに昇華させたい」と位置づけられました。

内容は、①地元意識把握調査②開発関連計画の整理③地区環境の現況と課題④一番街施設整備基本構想の策定⑤施設整備手法⑥事業化方針の検討で構成し、以下の5点が大きな課題に挙げられました。

- 1 荷捌き ▶ 創成川アンダーパスとの接続
- 2 地下施設 ▶ 南一条道路下の地下街の実現に向けた検討
- 3 街区開発 ▶ 地区全体の活性化に寄与する街区開発の推進
- 4 界限空間 ▶ (中通り、パッサージュ)街づくりのコンセプトの実践と市民快適への寄与
- 5 駐車場 ▶ 地区全体としての地上駐車場の整備と共同運用

構想を具体的に検討するため、協議会は運営委員会のほかに、事業分野ごとにマネジメント、地上施設、地下施設の3部会を設けました。

マネジメント部会は「街づくりガイドライン」「運営・管理の仕組み」などを担当し、地上施設部会は「全体の将来イメージ」「事業費」などを、地下施設では「地下プラン」「創成川アンダーパスとの接続の可能性を探る地下ネットワーク」「物流・荷捌き施設」などを、それぞれ調査、研究することになりました。

協議会は、2000年6月21日、札幌市にこの構想の内容を説明し、市に協力を要請しました。また、同年7月には岩井会長らが富山市で開かれた富山地下街協議会主催の「まちづくりフォーラム」に参加、地下街を含めた市街地活性化について意見を交換しました。

こうした取り組みと並行して、商店街の活性化のための事業も展開、02年5月から大通西3の空き地を借りて、「まちづくり広場」と名付け、イベントスペースとして一般に開放しました。広場のオープン記念に南一条商店街をPRするフリーペーパー「SOS」= South One Streetの略=の創刊イベントを実施、来街者に約3千部を配布しました。



● 富山視察(2010年)

2000年～2006年

官民協働の取り組み

『まちづくり指針』の策定

札幌市は2000年6月に都心のまちづくりを長期的に展望した『まちづくり基本計画』をまとめ、7月には当該計画の実現に向け、おおむね5年以内に取り組むべき民間及び行政の事業を体系化した『中心市街地活性化基本計画』を策定しました。

この計画で、南一条地区がまちづくり促進地区として指定されたのに基づき、02年10月、協議会は札幌市との官民協働による「一番街商店街周辺地区まちづくり協議会」(座長・倉田直道工学院大学教授)を設置しました。

まちづくり協議会は04年5月、南一条地区の将来像を描き、その実現に向けた方策や取り組みを示す『まちづくり指針』を策定し、一番街商店街及び大通公園側を含む約5haを「一番街商店街周辺地区」の対象区域としました。以後この対象区域を「南一条地区」と呼ぶことにしました。また、南一条通を中心に大通公園や創成川など周辺との連携を図り、都心の活性化実現に向けた取り組みを行うと決めました。

指針では、まちづくりの3つの目標「札幌アーバンコアの形成」「豊かなパブリックライフの実現」「札幌ライフスタイルの発信」を掲げ、方針として「街並み景観や低層部の使い方のルール作り」「歩行者回遊ルートの創出」「地下歩行者ネットワークの形成」「まちを効果的に活用する組織づくり」「地区までの交通支援」「地区までの回遊性の確保」等の10項目を定めました。

また、実現への取り組みを①ルール作り(方向性、ガイドライン)②プログラム展開(仕組み、事業化)③プロジェクト推進(実施、検証)の3段階に分け、それ

ぞれにまちづくり方針の各項目を有機的に連携させながら、まちの将来像を実現していくことになりました。指針の策定に伴って、協議会は専門部会を以下の4部会に再編成し、それぞれの分野について調査、研究を重ねました。

- 1 マネジメント (イベントの計画及び実施)
- 2 施設 (再開発地区の施設整備の優先度、方法、仕組みを検討)
- 3 交通 (新規大型駐車場の設置場所・資金計画の検討)
- 4 地下部会 (地下通路・地下街の検討)

【イルミネーション】【オープンカフェ】 【グリーン・オン・パレード】

協議会は、夜間の人通りが少なくなった南一条通の活性化のために、2002年11月から冬の2カ月間、西1-3丁目の街路樹にイルミネーションを点灯する「キラリウム」(愛称)事業を始めました。丸井今井と三越の両百貨店の尽力によって実現したのです。この事業は06年までの冬季間の限定でしたが、現在も大通公園を主会場に実施している「さっぽろホワイトイルミネーション」の南一条会場として継続しています。11年冬から電飾をLEDに変更します。





●プランター・アレンジ・コンテスト

協議会は札幌市との共同プロジェクトで03年9月の週末2日間、歩道に植物のプランターを設置したオープンカフェ(花カフェ)を開きましたが、翌年は規模を拡大し、7月から8月にかけての週末2日間、車の通行を止めて車道上にステージを設け、イベントを楽しみながら飲食するオープンカフェ(夏カフェ)も開設しました。

この2年間のオープンカフェの社会実験を踏まえ、05年からは、さっぽろプロムナード運営協議会が毎年7月から9月上旬にかけて毎週日曜(一部土曜)に「オープンカフェ in さっぽろプロムナード」を実施しています。

05年8月7日から9月30日まで、札幌市とともに路上を緑で飾る「グリーン・オン・パレード」を実施しました。南一条沿道で美しい花と緑の街路景観を作り出すのが目的で、プランターのアレンジメントは一般から募集しました。すぐれたアレンジメントを審査・表彰するイベントとして、企業などが参加した「大型プランターによる緑の街路づくり」と参加者にあらかじめ素焼きの鉢を提供して、花木や草を自由に植え付けてもらった作品の出来栄を競う「プランター・アレンジ・コンテスト」を始めました。

この成果を踏まえ、同年12月下旬から翌年4月までの約4ヵ月間は、「グリーン・オン・パレード」

の冬バージョンも実施しました。市民の人气が年々高まり、06年には、7月1日から10月下旬までの約4ヵ月間の長期にわたって実施しました。この事業は現在も夏、冬ともに継続して実施しています。

イルミネーション事業開始の翌03年から、協議会は専門部会を次の3部会に再編成しました。05年には、まちのマーチャン・ダイジングを検討するためMD部会も設置しました。

1 施設・マネジメント

地下利用、接続の考え方について市と協議

2 地下・交通

「地下歩行者ネットワーク構想」の推進活動
南一条地区地下歩行者ネットワーク構想の整備計画

3 イルミネーション

冬期間街路樹を電飾

4 MD (マーチャン・ダイジング)

まちのMDを検討



●グリーン・オン・パレード 開会式 挨拶をする斎藤元護会長



●オープンカフェ(夏カフェ)

2006年

上質でエキサイティングな街を目指して

『南一条地区街並みガイドライン』の策定

まちづくり指針の成果として2006年3月に策定されたのが、『南一条地区街並みガイドライン』です。ガイドラインは、まちづくりの目標、まちの将来像を統一した考えで、関係者みんなで取り組むための指針です。地区の範囲と地下ネットワーク構想のエリアを定め、まちの将来像として「上質でエキサイティングな街・南一条」を目指しています。法的拘束力はなく、紳士協定です。策定に当たっては、説明会を開いて地元の合意形成に努めました。

ガイドラインには、まちづくりに経営の概念や手法を取り入れ、権利者や住民、関係企業・団体、行政機関らがまちの経営を担う組織を立ち上げ、地域の魅力を向上させる事業を展開する「エリアマネジメント」の考え方が生かされています。

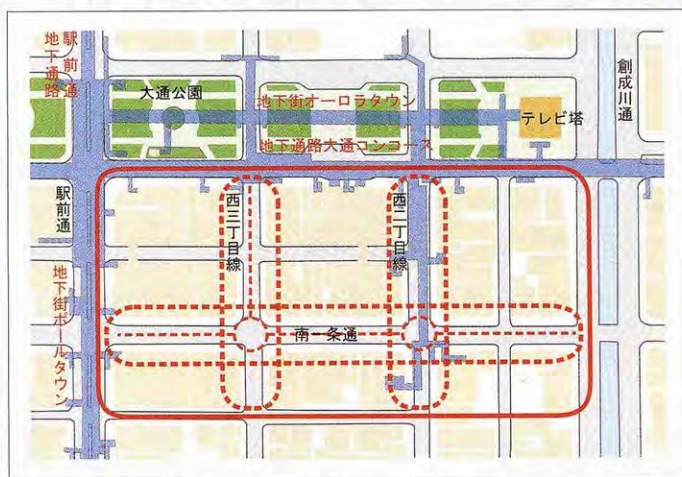
内容は①南一条にふさわしい落ち着いた色彩のある色彩の街並みづくり②上質な街並みに配慮した看板・広告物の設置③一年中楽しく歩ける歩行者空間づくり④まちの回遊性を高める地上～地下ネットワークづくりなどの8項目で、関係者全員がすぐ取り組むべきことと、将来の検討課題とに分けて考えています。

また、ガイドラインの対象に建物、歩行者空間だけでなく、建物側面や沿道空き地等の中間領域も加え、その運営・管理についても定めています。中間領域は、歩行者空間ににぎわいをもたらす、歩行者を建物に引き付ける領域として重要です。

同月28日、ガイドラインの策定を記念した『エリアマネジメントによるまちづくり・都心まちづくりフォーラム2006』をホテルオークラで開催。

座長の倉田直道・工学院大学教授と経済産業省中小企業庁の担当者が基調講演し、福岡、神戸、金沢、東京の事例報告、まちづくりの展望についてのパネルディスカッションを行いました。関係者のほか市内の商業者ら200人以上が出席し、盛況でした。また、この席で「南一条地区街並みガイドライン」が発表され、リーフレットが配布されました。

5月30日には、ガイドラインの運用方法などについて説明会を開きましたが、南一条地区だけでなく、隣接する各商店街の関心も高く、説明会には多くの参加がありました。

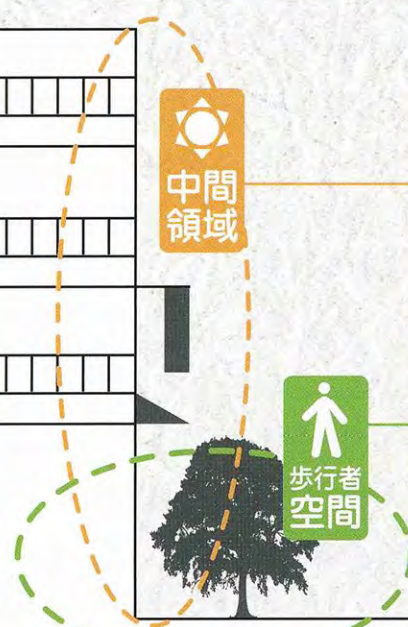


● まちなみガイドラインの範囲と地下歩行者ネットワークの構想



● 『エリアマネジメントによるまちづくり・都心まちづくりフォーラム2006』(北海道新聞 2006年3月29日朝刊より)

街並みガイドラインの対象



建物の意匠・形態などについて

方向性

- 街並み景観や低層部
- 時間消費型、文化情報発信機能の導入

ガイドラインで定める項目

- 建物用途
- 壁面のしつらえ
- 看板、サインのルール

建物壁面、沿道空き地、歩行者空間などの運営・管理について

方向性

- 札幌都心の風物詩をプロデュース
- まちを効果的に活用する組織作り

ガイドラインで定める項目

- 置き看板の禁止
- 駐輪、駐車ルール
- 夜間のにぎわい演出
- イベントの実施

形態・配置などについて

方向性

- 歩行者回遊ルート構築
- 地下歩行者ネットワークの形成
- 地区までの交通支援
- 地区までの回遊性確保

ガイドラインで定める項目

- バリアフリー化
- ロードヒーティングの設置、運用
- 花、緑、ストリートファニチャーなどの環境づくり

※ 街並みガイドラインでは、「建物」「歩行者空間」だけでなく、「中間領域」の運営・管理についても定めます。官と民の領域の「際」部分(中間領域)は、歩行者空間ににぎわいをもたらす、建物に歩行者を引きつける領域として重要です。

街並みガイドラインは「8つの項目」と「2つのレベル」により構成されます

8つの項目	2つのレベル	
	これだけ必ず実行しましょう	みんなでやってみましょう
1 にぎわい用途の積極的導入	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌を代表する商業地として、関係者全員が必ず守るべき内容 ・すぐに取り組んでもらいたい内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・まち全体で取り組むことで、効果が得られる内容 ・関係者全員で実行できるように検討していきましょう <p>※建替時、改修時には協力をお願いします</p>
2 低層部のにぎわいづくり		<ul style="list-style-type: none"> 2-1 透過性の開放的なハザード 2-2 来街者が集まれるスペースの創出(建物前) 2-3 来街者が集まれるスペースの創出(角地)
3 南1条にふさわしい落ち着いた色彩のある街並みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 3-1 外壁の色彩 3-2 原色使用制限 	
4 上質な街並みに配慮した看板・広告物の設置	<ul style="list-style-type: none"> 4-1 置き看板の禁止 	<ul style="list-style-type: none"> 4-2 看板・サインの制作ルール
5 一年中楽しく歩ける歩行者空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> 5-1 ロードヒーティングの設置、運用 5-2 荷捌きルール 5-3 適正な駐輪・駐車 	<ul style="list-style-type: none"> 5-4 バリアフリー化 5-5 歩きやすい歩行空間 5-6 歩行者に配慮した交通サービス施設の設置
6 まちの回遊性を高めるわかりやすい地上～地下ネットワークづくり		<ul style="list-style-type: none"> 6-1 地下ネットワーク化
7 楽しい時間をすごせる通りの環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 7-1 貼り付け広告のデザイン 7-2 沿道空き地、歩道の清掃 	<ul style="list-style-type: none"> 7-3 環境づくり 7-4 外壁の活用 7-5 夜間のにぎわい創出 7-6 沿道施設の景観への配慮
8 街全体を活用したにぎわい創出イベントの実施	<ul style="list-style-type: none"> 8-1 グリーン・オン・パレードの実施 8-2 イルミネーション(キラリアム)などのイベント実施 	<ul style="list-style-type: none"> 8-3 歩道などでの多様な展開 8-4 オープンカフェの実施

2007年

市民が安全・安心して 回遊できる地下空間

『南一条地区地下歩行者 ネットワーク構想』の策定

協議会は、札幌市と地下利用、地下接続の考え方を協議、2007年8月「街並みガイドライン」で定めたまちの回遊性を高める地上と地下のネットワーク形成についてさらに検討し『南一条地区地下歩行者ネットワーク構想』（地下接続の考え方）を策定して、PR用のリーフレットを作りました。

構想は、市民が季節を問わず安全かつ安心して南一条通を歩けるように、すでに整備されている地下街や地下鉄コンコースと接続した地下歩行者ネットワークの拡充を図ることをまちづくりの目標としており、具体的には次ように構想しました。

- 1 南一条地区全体の地下ネットワークは、南一条通（駅前通—創成川通）と西3丁目線（大通—南一条通）及び既存の西2丁目線の地下鉄コンコースを組み合わせた格子状の配置とする。
- 2 南一条地区の目抜き通りである、南一条通を活気ある通りとするために、南一条通の魅力ある地下施設及び気候に左右されず通年イベントを行える地下の大通公園（憩いの広場）の整備を最終目標とする。
- 3 南一条通地下に幹線と位置付ける地下街や地下歩行空間あるいは公共的広場空間を整備し、既存地下街のポールタウン、オーロラタウンや大通コンコースと接続し、地下における回遊性を確保する。
- 4 補助幹線としての西3丁目線地下にも、南一条通地下施設と同じく、単なる地下歩行者通路のみではなく、店舗等や公共的スペースを配置して

にぎわいを形成する。併せて、西3丁目通と西2丁目通と南一条通の交差点部地下には、特に冬季には安全で安心な空間として、集いや憩いの空間としての地下広場を整備する。

5 建物の改築時には、歩行者が複数の経路を選択可能となるよう、隣接する建物との間を地下で接続可能な形態とし、民間ビルとの地下接続についても推進する。

6 地下歩行空間には、イニシャルコストの増大につながらない限り、電力やガスなどのインフラ幹線や堆雪・融雪槽、駐輪場などの都市施設や公共施設等を併設することも視野に入れて将来対応できる計画をする。

また、地下施設で期待される効果として「回遊性向上に伴う歩行者数の増加」「地下歩行空間整備に伴う他地区からの来街者増加」「南一条地区のイメージアップ」「地下広場などの賑わい創出による滞在時間の増加」「沿道ビルの建て替え促進及び地下接続への期待」を挙げました。

このほか、地下施設の管理と運用、建物建て替えの際の地下施設との接続の考え方も示しました。

07年と08年には国土交通省『まちづくり計画策定担い手支援事業』に全国13の事業主体の一つとして選定され、この補助金を得て、地下歩行者ネットワーク構想を含めたまちづくりの調査・研究をさらに深化させることができました。この研究成果の説明会も商店街を対象に開きました。



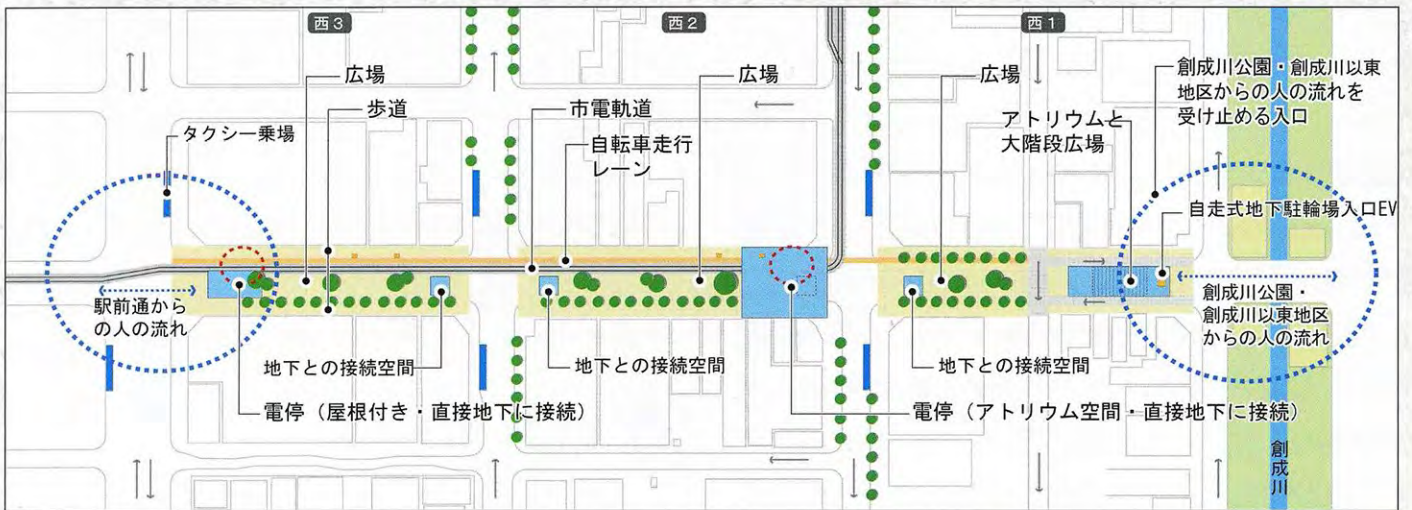
● 地元説明会

南一条地下歩行空間イメージ

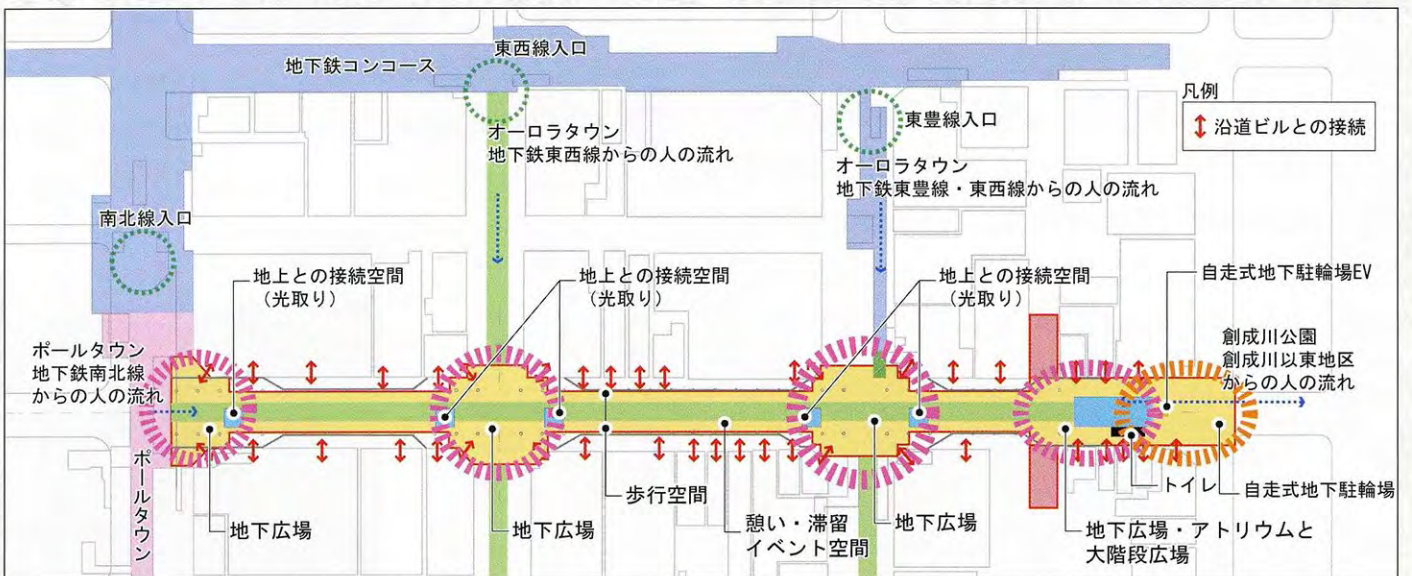
● 多様な活動展開を支える地下広場の創出

天候に左右されることなく、市民が憩い、集い、様々な活動が展開でき、また、札幌の老舗商業地としての賑わいがにじみ出るような地下広場を官民共同で創出し、札幌市民のくらしと文化発信の拠点づくりを目指します。

【地上部平面図】



【地下空間平面図】



※ 上図は導入機能や空間のイメージを記載したものです。

各施設の位置等は、関係機関と調整をはかったものではなく、確定したものではありません。

2008年～2011年 地下歩行空間の実現に 向けた活動

札幌市へ2度『要望書』提出

2008年4月から、協議会は札幌市と、地下歩行者ネットワーク構築の諸課題について定期的に協議を始め、共同研究を重ねて、5月7日には、南一条地区のまちづくりと一体になった地下歩行空間の整備に関する要望書を上田文雄市長に手渡しました。

齋藤元護協議会会長((株)まるいち社長)は「札幌駅前地下通路整備地区の事業の成功を例に、南一条通にも地下歩行空間を整備してほしい。実現に当たっては、官民協働のもとで、沿道企業、地権者は最大限努力する。地下歩行空間の下には、将来の再開発に合わせた共同荷捌き施設、駐車・駐輪施設などのインフラ整備も合わせて検討してほしい」と述べ、市の積極的な取り組みを要請しました。

5月14日、協議会は、札幌市と札幌商工会議所との三者懇談会を開き、行政だけでなく、経済団体のバックアップも要請しました。市議会の質疑でも『南一条まちづくり計画』の策定問題が相次いで取り上げられ、この時期、地下歩行空間に対する市民の関心は一気に高まりました。

協議会は7月から札幌市の関係部局と市の『南一条まちづくり計画』策定に向けて定期的に意見を交換、調整する一方で、南一条地区関係者へのアンケートを独自に実施し、12月には関係者への説明会も開きました。それらの成果を09年3月『南一条地区地下・交通施設等検討報告書』としてまとめ、札幌市に提出しました。

報告書では、駅前通地下歩行空間と創成川親水緑地空間、大通交流拠点の3事業の効果を高め、都心全体に連鎖・波及させるためには、各事業のネットワーク化が必要であり、さらなる施策が望まれると指

摘。南一条まちづくりで期待されるような効果を上げるには、交通課題の解消、公共交通機関の充実、快適な歩行環境、地域ルールの策定、民間ビルとの連携、公共貢献等をさまざまな視点から検討することで、大通地区だけでなく、都心全体の再生が実現すると提言しました。

札幌市は10年度から2ヵ年計画で、『南一条まちづくり計画』策定に着手、地下通路の整備範囲やビルとの接続方法などを検討していますが、協議会も、市民、市議会に理解される南一条地区の再生シナリオを共有するため、この策定作業に加わっています。

協議会は10年11月25日上田市長に南一条の街づくりに関する「要望書」を提出しました。2度目の「要望書」は、札幌市が考えるまちづくりに連動させた以下の3点です。

- 1 地下歩行空間の整備
(南一条通の西1-3丁目区間及び西3丁目線の南大通から南一条までの区間)
- 2 南一条への路面電車の延伸
(西4丁目-南一条通-西2丁目線を北伸させることが望ましい)
- 3 歩行者専用のトランジットモールとしての整備



● 南1条を歩行者専用
(北海道新聞
2011年4月11日夕刊より)



● 上田市長へ「要望書」を提出する
森吉丈夫会長

地下歩行空間の整備、権利者の90%が支持

協議会は、関係者の意見を把握するため、随時各種アンケートを実施していますが、いずれのアンケートも地下歩行空間の整備を必要とする関係者が圧倒的に多くなっています。10年10月5日から11月22日の間に南一条地区の全土地・建物所有者(58棟)を対象に実施したアンケートでは、34棟の地権者及び権利者が回答し、「地下歩行空間」には90%、「路面電車の延伸」には83%、「トランジットモール」には86%がそれぞれ整備を進めるべきと答えました。さらに「将来的な民間ビルとの接続」についても、地下歩行空間の整備と同時、または将来的に接続したいが66%でした。

また、南一条地区開発事業に対する市民ニーズを調査したWEBアンケート(11年5月実施)では、「地下歩行空間」「路面電車の延伸」「トランジットモール」について、70-90%の人が整備によって効果が期待できると賛成の意向を示しました。特に地下整備による回遊性の向上を期待する回答が多くありました。

札幌市商店街振興組合連合会では、1970年(昭和45年)から毎年都心の地上、地下8商店街等の通行量を調査しています。札幌駅前通り地下歩道の開通後の11年3月下旬に実施した調査では、南一条通の大型店来店者の75%以上が地下から来店、札幌駅前通り地下歩道は予想を上回る通行量があり、大通地区の来店者数も増加しました。南一条商店街の地上歩行者数は減少傾向にある一方、オーロラタウン、ポールタウンの地下歩行者数は2005年以降微増傾向との結果が出ました。

南一条の再生を自分たちの手で

協議会は、まちづくりの先進事例を視察する国内外の都市研修をほぼ毎年実施しています。近年では、10年3月に中心市街地活性化事業で路面電車の環状線化事業に取り組み、効果を上げている富山市、同年11月にはカナダ・トロント、モントリオール両市を訪問しました。トロントでは世界最大の地下ネットワーク

(PATH)や市電などの交通網、モントリオールでも世界的に有名な「屋内歩行者ネットワーク」(RESO)と呼ばれる大地下街などを見学し、いずれも南一条地区の開発にとって大いに参考になりました。

4月には、札幌市長選で3選を果たした上田市長が、地下整備と歩行者、路面電車専用のトランジットモール構想を12年度中に策定すると表明しました。南一条開発事業が新たな段階に入ったのを機に、協議会は4月から運営委員会が専門部会を統括し①整備推進②企画情報③イルミネーション④グリーン・オン・パレードの4部会に再編成しました。

吉田博一協議会運営委員長は「駅前通地下歩道の開通で、予想通り南北の人の流れは多くなり、大通地区にも戻ってきている。次は南一条地下歩行空間の番だと思っており、上田市長の発言を心から歓迎している。時間を惜しまず、何が何でも南一条地区の再生を自分たちの手で実現したい。そのためにも運営委員会の機能をさらにバージョンアップし、実効を上げたい」と、意欲を語りました。

4月オープンした創成川公園「開拓の広場」は、南一条地区の発祥の地です。協議会は歴史と由緒を後世に伝えるため造成に全面的に協力し、同地区の本府第一町内会の「札幌建設の地碑」寄贈にも支援してきました。3月24日上田市長から同町内会に対し地碑寄贈の感謝状が贈られましたが、これには協議会への感謝の念も込められていました。



● 上田市長より感謝状を受受する吉田博一協議会運営委員長・本府第一町内会会長

札幌南一条地区開発事業推進協議会

〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西2丁目 南1条Kビル
TEL: 011-261-0151 FAX: 011-241-3015

<http://www.no1-street.jp>

～札幌南一条地区開発事業推進協議会のあゆみ～

企画:55企画 制作:北海道新聞社 マーケティングセンター
2011年7月1日発行

